平成 17 年（2005 年）6 月 20 日

廃棄物学会ニュース
The Japan Society of Waste Management Experts
No.87
廃棄物学会

会 長 就 任 挨 拶

第 8 期廃棄物学会会長　山本 和夫
(東京大学環境安全研究センター　教授)

田中信壽前会長、藤本忠生前副会長(会長代行)が相次いで逝去されるという哀しくかつ異例な事態を受け、第８期の残任期間を担当する会長を拝命した。後任の会長として、これまでの廃棄物学会の発展に大きく貢献されたお二人にあらためて深甚の謝意を表したい。

小職及び澤地副会長、伊藤副会長、井手副会長の執行部体制で残された１年足らずの期間であるが、理事・評議員及び事務局の方々のご支援を受け、会員の皆様方にとって失われた１年とならないよう努力していきたい。

残任期間において、背伸びして新会長色を出すつもりは毛頭ない。第８期の始まりに故田中信壽前会長が示された方針を、粛々と一つでも多く実現することを使命としたい。

前会長の就任に際し述べられた抱負の中で、小職が重く受け止めている言葉がある。

「これまでの実績を前進させながらも、思い切った方向転換も考えたい。第８期が学会のターニングポイントであったと言われたい。」

道半ばで、志を後任に託さざるを得なくなった無念はさぞや大きかったであろうと拝察する。さらに具体的には「６つの委員会の機能・役割分担・再編成を、会員へのサービス、社会への貢献などを目標に検討し、中長期目標を作る」ことが記されている。

この道をどこまで敷設できるかわからないが、先の理事会で設置が決まった財政問題等検討委員会において、予算編成の方針や財政の基盤となる会員増強の具体策とともに、上記のような学会組織の構造改革につながる根本的議論についても検討を開始する予定である。検討するだけではなく、合意が得られればスピードを重視した具体的対応をしていきたい。また、たとえ根本的解決に至らなくとも、求められる学会活動と財政の関係を整理することにはなるであろう。

廃棄物マネジメント分野に関する国際協力の推進については、田中勝廃棄物学会戦略会議議長より既に行動計画が提案されている。先の理事会においてその基本方針が承認された。戦略会議と国際委員会（松藤康司委員長）が連携してアジア太平洋地域を中心とした専門家のネットワーク形成に関する具体的方策の検討を進めることとなっている。その具体化の第１歩として、アジア太平洋専門家会議等の開催が今秋に予定されている。

第８期において取り組むべきものとして挙げられている以下の短期的課題については、既定方針どおり着実に実行していきたい。

１）会員増強
２）法人化検討
３）理事選挙制度改正
４）表彰制度改正
５）支部との繋がりの強化
６）市民会員との連絡網の強化

会員増強については、廃棄物学会の裾野を広げることも重要であるが、将来の廃棄物学会を担う若い世代が強化されることも同時に重要である。決して財政基盤だけの問題ではない。

法人化については、会員の総意が得られるよう引き続き検討を重ねていく。

理事選挙制度改正については、理事会でほぼ合意が得られつつあり、次期理事選挙に必ず間に合わせる。

表彰制度改正についても、早期に理事会で議論し、今年度からの実施を目指す。

支部との繋がりの強化及び市民会員との連絡網の強化については、既に理事会に担当理事が置かれており、担当理事の下で実行していく。

以上、こまごましたことも記した。故田中信壽前会長が示された方針、それを故藤本忠生前副会長がまとめてリストアップされた項目には、上記以外にまだ多くあるが、その遺志を継ぐ後任の会長として、有言実行のために記すべきものは記したつもりである。もし、会員の方からの多数の声として、廃棄物学会の名称変更に関しても検討せよということであれば、今期中に検討を開始することになろう。

いずれにせよ、会員各位のご理解とご支援なくして第８期のミッションの達成は覚束ない。何卒宜しくお願い申し上げる次第である。

5 月 26 日に開かれた理事会におきまして、井手義弘理事と伊藤秀章理事が副会長に選任されました。また、編集委員長であった山本和夫前副会長が会長に就任したことに伴い、伊藤秀章副会長に編集委員長を務めていただくこととなりました。学会役員につきましては、学会ホームページにも掲載しておりますので、ご覧下さい。

― 役員変更のお知らせ ―

会　　長	山本和夫（東京大学）：新任
副 会 長	井手義弘（シティウエル環境技術㈱）：新任
	伊藤秀章（名古屋大学）：新任
	澤地　實（大阪市）
編集委員長	伊藤秀章（名古屋大学）：新任

新副会長就任挨拶

第 8 期廃棄物学会副会長
井手　義弘
(シティウエル環境技術㈱ 社長)

会員の皆様にはますます御清祥の事と拝察いたします。私、この度、理事会にて副会長の大役を仰せつかり重責を果たすべく思いを新たにしているところです。廃棄物学会の活動も盛況となり、誠に喜ばしいことではありますが､先日､田中信壽会長並びに藤本忠生副会長の急逝で理事一同は大変驚き戸惑って居ります。しかし、何とかこの難関を乗り越えなければなりません。

廃棄物学会では、不況や企業リストラなどの影響による会員の退会が増加し、財源不足も深刻化しております。昨年来実施してきた対策に加え、何らかの抜本的対策を実行せねばならない段階に到っており、公益会員、賛助会員及び個人会員いずれの会員も増強が必定であります。そこで、会員の皆様の御活躍の場で、未だ会員となっていない方がおられましたら、是非、入会して頂くよう勧誘をお願いいたします。

更に、学会の活動も国内はもとより、国際化しており、特にアジア諸国に対する貢献を含む地球全体の廃棄物処理に関する行政、市民、企業、学界など多くの分野へ技術、経営、手法、安全安心性、研究開発等の情報を発信して行く必要があります。これらの活動が、会員の皆様に利益をもたらす事になると考えますので皆様の一層の御協力を心からお願いする次第であります。

さて、故田中信壽前会長を偲ぶ会を学会主催として、9 月 6 日（火）学士会館にて行いますと共に、故藤本忠生前副会長を偲ぶ会を関西支部主催として 10 月中頃に計画しておりますので、皆様多数のご参加をお願い致します。

学会としての課題は、上記以外に故田中信壽前会長のご指示でありました法人化、選挙制度の改革、書籍発行など大きなものが残っております。これらの事項につきましては、山本会長、澤地副会長、伊藤副会長、各委員長並びに事務局長と一丸となり、微力ながら実現へ努力して参りますので、重ねて皆様の御協力をお願い致しまして、私の就任の挨拶に代えさせて頂きます。

第 8 期廃棄物学会副会長
伊藤　秀章
(名古屋大学　教授)

このたび、山本和夫会長の就任にともない、副会長および編集委員長の役を拝命致しました。田中信壽会長と藤本忠生副会長のご逝去は、学会運営において大きな痛手となりました。今後は新たに就任された山本会長を中心に、副会長、理事、各委員会のメンバーと協力して、前会長・副会長のご遺志を受け継ぐとともに、学会が直面している諸課題に取り組んでいく所存でございます。会員の皆様のご指導、ご鞭撻を心からお願いする次第です。

さて、最近の理事会では学会の財政問題が常に議論されています。廃棄物学会の会員数は、創立以来比較的順調なペースで増大してきましたが、ここ数年で頭打ちから減少に転ずるようになりました。私も自分の専門に関わるいくつかの学会の運営に関与してきましたが、本学会の財政難が議論されだしたのはむしろ遅いほうです。多くのいわゆる「弱小学会」が財政危機に直面し、大変な努力をして、会員増強、運営合理化、活動のスリム化を試みていますが、実際には学会のリストラを余儀なくされているのが現実です。

それに比べて、廃棄物学会は規模や会員の分野種別から言って、財政や運営の面でまだ余裕があると私は考えています。すなわち、事務局運営や本部・支部活動、あるいは編集活動の予算や事業内容は、他学会と比較してもそれなりの水準を維持していると思います。しかし、この学会も一定の成熟度に達した今日、組織や運営の硬直化が生じていないかどうか、その活性化やスリム化に対して柔軟に対応できる体質を有しているかどうかが問われています。

私はこれまで理事としての任務のほか、東海・北陸支部や編集委員会の活動に携わってきました。そのなかで、廃棄物処理・管理に関わる社会的要請（ニーズ）を的確に捉え、これに応える運営体制を絶えず志向するならば、アクティビティーの高い学会活動を維持・向上することができると考えています。そのために、まずは組織上及び財政上の無駄をなくすことと、会員の合意を得た新しい事業展開への集中が必要です。

細部にわたる小手先の修正も必要ですが、社会の大きな流れがどこに向かっているかを見極めながら、大胆な改革も必要ではないかと痛感しています。

故田中信壽先生を偲ぶ会

開催日時：平成 17 年 9 月 6 日（火）15:00～18:00
開催場所：学士会館（東京都千代田区）
参 加 費：5,000 円（当日、会場にて申し受けます）
問合せ先：廃棄物学会事務局　※詳細につきましては、決定次第、学会ホームページ等でお知らせいたします。

■□■ 総務委員会 ■□■

平成17年5月26日

平成17年度 総会報告

同時開催：平成16年度廃棄物学会賞表彰式

平成 17 年度廃棄物学会総会は、平成 17 年 5 月 26 日に川崎市産業振興会館において、正会員 102 名の出席と 735 名の委任状をあわせ、会則に定める定数（正会員の４分の１以上）を超える出席を得て開会された。なお、開会に先立ち 3 月 11 日に逝去された田中信壽会長、4 月 12 日に逝去された藤本忠生副会長のご冥福を祈り黙祷を捧げた。

まず、山本会長が挨拶に立ち、故田中信壽前会長の意志を引き継ぎ第 8 期任期期間中の活動を行うこと、副会長に新しく伊藤秀章氏及び井手義弘氏が就任したことを述べられた。

引き続き、出席者から若村保二郎氏が議長として、また谷川昇氏及び岡田光浩氏が議事録署名人として選出され、議事に入った。

まず井手総務委員長から第1号議案「平成16年度事業報告」が報告され、満場一致で承認された。次いで第2号議案「平成16年度収支決算」について報告の後、両監事欠席のため、中西事務局長が「監査報告」を行い、審議の結果、満場一致で承認された。更に、第3号議案「平成17年度事業計画（案）」、第4号議案「平成17年度収支予算（案）」について審議が行われ、両議案が満場一致で承認された。以上で総会議事はすべて終了した。

閉会にあたり澤地實副会長から、故田中信壽会長を偲ぶ会を9月に学会主催で開催すること、故藤本忠生副会長を偲ぶ会を地元である関西支部が主催して開催することが報告され、総会は無事閉会した。

休憩を挟み、同会場にて、平成16年度廃棄物学会表彰式が行われ、2件の大賞、2件の功績賞、1件の論文賞、2件の奨励賞が贈られた。

大賞は、学会創設以来多大な貢献のあった、寄本勝美氏と故田中信壽氏（追贈）に贈られ、功績賞は、辻喜礦氏と故藤本忠生氏（追贈）に贈られた。論文賞には、柴田悦郎氏、福田和博氏、中村崇氏、有馬猛氏、高須登美男氏、伊藤秀行氏の「溶融塩－スラグ間の重金属類の分配挙動」（廃棄物学会誌第15巻第3号掲載）が高い評価を受けて選ばれた。奨励賞は、寺園淳氏と東條安匡氏に贈られた。寺園氏はアジア圏を含む循環資源のリサイクル・廃棄物管理に関する研究、東條氏は廃棄物処分場における水分移動現象とその制御法、有害物質、重金属類の負荷等管理戦略、埋立地の長期的な動態予測等の一連の研究が評価されたものである。受賞者には山本会長より表彰状と記念品が授与された。

なお、受賞者記念講演は、本年10月31日から仙台市で開催される第16回廃棄物学会研究発表会において予定されている。

（総務委員会　貴田晶子　記）

■□■ 年会委員会･研究委員会 ■□■□

平成17年5月26日~5月27日

平成17年度研究討論会を終えて

今年の研究討論会は、5月26～27日の2日間、川崎市産業振興会館で開催され、盛会裏に終えることができた。まずもって、企画・運営に携わった関係者にお礼申し上げたい。今年は昨年と同様に1会場で行い、昨年より42名多い277名にご参加頂いた。近年は参加者が減少傾向にあったので、少し明るい兆しである。

来年以降、研究討論会をさらに活性化させるために、テーマ、討論、連携という3つのキーワードを考えてみたい。

討論会の様子

まず、今回の参加者増加要因の1つとして、興味深いテーマがそろったことが挙げられる。春のこの時期に、研究発表会とは形式を変え、会員や一般の関心の高いテーマについて議論する必要性は高いと考える。

次に討論会の目的は、課題を共有しながら、率直かつ活発な議論を行って今後の問題解決の方向を見定めることである。そのためには、一討論会あたり2時間という時間は短いかもしれない。会場数を2つに戻す方法もあるが、討論会の運営方法や参加者の関心を考慮しながら検討したい。

最後は連携である。今年は研究討論会として初めて学会連携企画を研究委員会が実施した。また、計画部会は日本学術会議の小委員会と連携した企画を開催した。研究発表会も含めたより大きな連携や会員相互のレベルの交流にはまだ時間がかかるが、今回の試みは大変有意義であったと思われる。他学会との連携は学会改革の大きなテーマの一つであろう。廃棄物学会になかった考え方や知見を他学会から取り入れることが、学会相互の発展にとって有益になればよいと願う。

(年会委員会幹事　寺園淳　記)

■□■□　国際委員会　□■□

平成17年5月12日～5月14日

韓国廃棄物学会参加報告

平成 17 年 5 月 12 日～14 日、韓国南東部、慶尚北道地域安東市の安東国立大学で、韓国廃棄物学会 2005 年春季学術研究発表会が開催された。日本からは松藤国際委員会委員長以下、福岡大学、北海道大学、国立環境研究所などから約 30 名が参加した。

安東市はソウルから高速バスで 3 時間の位置にあり、人口は約 18 万人である。その昔、両班（ヤンバン）と呼ばれる貴族たちが多く住んだところで、その邸宅を子孫たちが守りつづけている民族村がいくつかある。とくに河回村（ハフェマウル）は、1999 年にイギリスのエリザベス女王が訪問した所として注目された。

第 8 回韓日共同国際セションとして、昨年と同様、韓日特別シンポジウムとポスターセションが行われた。

特別シンポジウムのテーマは「無機廃棄物リサイクルにおける技術と研究開発の動向」で、韓国から 3 名の発表があり、日本からは浮田正夫氏（山口大学）、尾花博氏（太平洋セメント㈱）が発表した。浮田氏が焼却灰リサイクルの動向、尾花氏がセメント工業での廃棄物の利用について説明し、韓国からは焼却灰、建築廃材、廃コンクリートのリサイクルについてそれぞれ説明があった。今回、論文集は英文での記載であったが、発表は母国語または英語で行い、韓国語または日本語への通訳があった。また質疑応答も母国語で行われ、相手国語に通訳されると言う工夫がなされていた。英語だけでの発表、質疑応答では、韓国でも参加者が少ないということで工夫されたようである。

▲　参加者での記念写真

ポスターセッションでは、日本から 17 編、韓国から 11 編、計 28 編といつもより多くの論文が発表された。多くの参加者があり、発表者から直接説明を受け、活発な意見の交換が行われた。

国際セッションに先立ち、安東市の下水処理場、廃棄物最終処分場、建築廃材リサイクル工場を見学した。建築廃材リサイクル工場は、石材、コンクリート廃材などの破砕、選別、洗浄工程を自動化しており、良くまとまった工場であった。

韓国廃棄物学会の会長、国際担当副会長、総務担当理事、国際委員会副委員長と日本廃棄物学会国際委員会の松藤委員長、鈴木とで意見交換を行った。今秋予定しているアジア太平洋廃棄物専門家ネットワーク化のための専門家会議への協力を求め、了承された。

（国際委員会　鈴木明郎　記）

□■□■　関西支部　□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

平成17年4月15日

見学会　開催報告

平成 17 年 4 月 15 日、大阪市都市環境局の舞洲スラッジセンターと伊丹市昆陽池（こやいけ）の底泥浚渫工事の見学会が、関西支部で開催された。見学施設の都合により、参加者は申込み先着順の総勢 52 名での見学会となった。

舞洲スラッジセンターは、その隣の環境事業局舞洲工場とともに、オーストリアのフリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサー氏のデザインによる建物で、おとぎの国のような外観であった。市内 12 下水処理場から発生する汚泥 900 トン / 日を集中的に処理する施設として計画された。現在は 450 トン / 日の処理能力で、4 ヵ所の下水処理場から汚泥圧送管によって送られてくる消化汚泥が脱水、乾燥、溶融処理され、スラグは有効利用されているとのことであった。工場の中は悪臭もなく綺麗で、無人の自動車が音楽を流しながら溶融スラグを運んでおり、メルヘンの世界にいるようだった。ただ、乾燥、溶融処理の熱源に都市ガスを使っているとのことで、「ちょっともったいないな」と感じた。

▲　見学会の様子

昆陽池(約 100,000㎡)は、奈良時代に灌漑用のため池として僧行基によって構築されたもので、関西有数の渡り鳥の越冬地である。富栄養化対策として行われている池底の堆積汚泥の浚渫・処理工事の現場で、浚渫した底泥を高圧薄層脱水システムによって処理する工程を見学した。このシステムは、浚渫した底泥から大きな土砂を取り除いた泥水をフィルタープレス機で脱水するシステムで、脱水ケーキの強度が高く、そのまま大阪空港の緑地で再利用しているとのことだった。

両施設関係者には丁寧なご説明をいただき、充実した見学会になりましたこと、厚くお礼を申し上げます。

（関西支部　池田由起　記）

□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■ 中国四国支部 □■□■

中国四国支部　講演会 ***平成17年5月20日***

「大気・水・廃棄物の各視点からの地球温暖化抑制に対する取り組み」

去る平成 17 年 5 月 20 日、ピュアリティまきび（岡山市）において、大気環境学会・日本水環境学会・廃棄物学会の三学会中国四国支部合同講演会が開催された。約 70 名が参加する中、「大気・水・廃棄物の各視点からの地球温暖化抑制に対する取り組み」をテーマとして、各学会から 1 名ずつ講師を招き、幅広い視点から地球温暖化に関する話題提供があった。

まず、大気環境学会から、「最近観測される大気中二酸化炭素濃度の上昇と地球の温暖化」と題して向井人史氏（(独)国立環境研究所）から温暖化の最新動向について豊富なデータに基づいた講演があった。次に、日本水環境学会から、「下水道施設における地球温暖化ガス抑制に対する取り組み」と題して森田弘昭氏（日本下水道事業団）から下水処理過程における温室効果ガスの発生と抑制対策について興味深いお話があった。最後に、廃棄物学会から中平徹也氏（岡山県環境保全事業団）が「地球温暖化の民生部門の取り組みについて」と題して市民への情報提供や啓発活動についてユーモアも交えながら講演された。

環境問題の理解と解決には幅広い視点で現象を捉えることが必要であるが、本講演会は普段交流のない学会会員間での情報交換を行う貴重な機会となった。講演会終了後の懇親会にも各学会から多数の参加者があり、さらに交流を深めることができた。

（中国四国支部　樋口隆哉　記）

▲講演会の様子

□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■ 九州支部 □■□■

総会、講演会開催報告 ***平成17年6月4日***

「北九州エコタウンの現状と今後の展開」

平成 17 年 6 月 4 日、平成 17 年度九州支部総会、講演会、懇親会が福岡ガーデンパレス（福岡市）において開催された。総会では、会則の定める定数（正会員数の 4 分の 1 以上）を越える出席数を得て成立した。平成 16 年度における事業報告と収支決算報告、監査報告、平成 17 年度における活動計画案と収支予算案の審議が行われ、いずれの議案においても満場一致で原案通り承認可決された。今年度から新たに「シンポジウム等に対する共催支援事業制度」が設けられることになった。この制度は、廃棄物問題改善に対する情報普及と学会活動の活性化・広報を目的とし、九州域内で開催される学会・講演会等の企画・実施を支援する制度である。今後これを通じて九州域内の各種団体の連携や交流の活発化が期待される。

講演会には約 70 名の参加があった。垣迫裕俊氏（北九州）をお招きし、「北九州エコタウンの現状と今後の展開」についてご講演いただいた。垣迫氏からは、これまでの北九州エコタウン事業推進の過程において出てきた 3 つの効果（行政の効果、経済の効果、環境負荷削減の効果）をわかりやすく解説して頂いた。さらにエコタウン事業推進のポイント、これまでの課題、今後の展開等についてユーモアを交えて楽しくお話しして頂いた。北九州市は、全国の政令指定都市の中でもいち早く「ごみ処理有料化」を導入した都市である。北九州市における経験談や苦労話など大変興味深いお話もあった。

懇親会には約 50 名の参加があり、会員相互の近況報告や情報交換、学会活動に関する意見交換が活発になされた。

(九州支部　岡重男　記)

▲講演会の様子

【お知らせ】

廃棄物学会協賛
第２回　バイオリサイクル工学シンポジウム
「動き出したバイオリサイクル北海道
ー地域活性とバイオリサイクルー」

開催日時：平成 17 年 7 月 15 日(金)13:30～17:20
開催場所：ホテルライフォート札幌（札幌市）
定　　員：300 名
参 加 費：無料（但し、資料代 500 円）
問 合 先：TEL　011-706-7581（担当：稲葉）詳細は下記参照
http://kanri-er.eng.hokudai.ac.jp/biocyc/index.htm

廃棄物学会廃棄物計画部会他共催
「循環型共生社会システム計画シンポジウム」

開催日時：平成 17 年 7 月 20 日（水）13:30-17:00
開催場所：全国町村会館（東京都千代田区）
定　　員：100 名
参 加 費：無料
申 込 先：所属、氏名、連絡先(TEL、FAX、E-mail 等)をご記入の上、下記まで FAX または E-mail で申込みください。
問 合 先：北海道大学大学院工学研究科循環計画システム研究室　FAX　011-706-7287　TEL　011-706-7284
E-mail　hisho@kanri-er.eng.hokudai.ac.jp

北海道大学大学院工学研究科公開講座
「廃棄物学特別講義ー循環型社会を創るー」

専門の異なる大学院生に対して開講している大学院共通講義を公開講座として実施します。
開催日時：平成 17 年 8 月 2 日(火)～5 日(金)9:00～16:30
（90 分×4 コマ×4 日）
開催場所：北海道大学大学院工学研究科（札幌市）
定　　員：30 名（先着順）
受 講 料：14,000 円
（特定講義のみの受講も可。1 コマ 3,000 円）
申込期間：平成 17 年 7 月 8 日(金)～7 月 22 日(金)
内容問合先：TEL　011-706-6827（担当：松藤）

次号（学会ニュース No.88）は 8 月 25 日発行予定です。

事務局夏季休暇：平成 17 年 8 月 15 日（月）

会 員 状 況	H17.5.31 現在 （ ）内は、H17.4.1 以降の増減
正 会 員	3,385　(-48)
学生会員	312　(　6)
外国人会員（ＤＭ）	25　(　3)
登録団体市民会員	3　(　0)
公益会員	110　(　1)
賛助会員	173　(-2)
計	4,008　(-40)

注）外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第 4 条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.87　平成17年6月20日発行
廃棄物学会　〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F
Tel.03-3769-5099　Fax.03-3769-1492
http://www.jswme.gr.jp
R100 印刷媒体は古紙配合率 100%再生紙を使用しています

岡山大学保健環境センター 公開講演会
ー 廃棄物･省エネ･地球環境 ー

開催日時：平成 17 年 6 月 28 日（火）13：15～15：30
開催場所：岡山大学大学院自然科学研究科大講義室（岡山市）
参 加 費：無料　　参加申込：不要
問 合 先：岡山大学保健環境センター環境安全部門
TEL　086-251-8162（担当：西村伸一）詳細は下記参照
http://www.okayama-u.ac.jp/user/ace/oshirase/oshiraseb un/kouennkai05.htm

JSWME Newsletter No.52 (April)
発行のお知らせ

英文ニューズレター第 52 号が発行されました。
※JSWME NEWSLETTER は 41 号より電子配信のみとなっています。最新号、バックナンバーは学会ＨＰから入手できます。
（主要目次）
廃棄物分野の ODA　：埋立地の安全閉鎖と修復
（JICA 調査、マレーシア）
技術移転手法の事例 ：CITYNET の取り組み
自治体事業紹介　：京都市におけるバイオディーゼル事業
国際会議報告　：アジア太平洋埋立地会議
（APLAS Kitakyushu 2004）

==========

The contents of No.52

==========

1 Dear Waste Management Experts
2 Japan's ODA on SWM:
-First-ever JICA Study on Safe Closure and Rehabilitation of Landfills (Malaysia)-
3 Solid Waste Best Practices Transfer
- CITYNET Experience -
4 Municipalities on the Move:
- An Attempt to Use Biodiesel in Kyoto City -
5 The 3rd Asia Pacific Landfill Symposium (APLAS Kitakyushu 2004)
6 Contents of Journal of the JSWME, Vol.16, No.1
Cartoon by High Moon:"Motorization is rolling onto our society like a tsunami."

==========

☆☆事務局だより☆☆

先日、開催された平成 17 年度の廃棄物学会研究討論会と廃棄物学会総会に、事務局のお手伝いで行ってきました。裏舞台で観察しますと、学会の運営が多くの方々に支えられている様子が解ります。私自身は、これまで学会行事の参加に消極的な会員でしたので、今回の参加を通して「今後は前向きに参加をしよう」と改心する機会を得ました。

そういえば、この学会ニュースも、（多忙にかかわらず）原稿を提供する方、原稿の締め切りを催促する事務局の方、ニュースを校正・作成する方など、多くの方々に支えられて作成、発行されています。

改心したばかりの私ですが、みなさんの職場などの周りに（も）、「廃棄物学会ニュースを見ていない方」いませんか。学会ニースの発信が、ダイレクトメールからホームページにシフトし、ニュースを読む事を忘れている方もいるようです。近くで、そんな方を見かけたら、学会ホームページ（学会ニュース）のクリックを宣伝してください。

さて、原稿提出の催促を受け、この原稿を書いている私です。またまた、改心です。　　（立尾浩一　記）